

---

# 瞳の奥の愛する君

夏目柚

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

瞳の奥の愛する君

### 【コード】

N9915M

### 【作者名】

夏目柚

### 【あらすじ】

刻を超えても、一緒にいたいという願い。

「出会いは幾度も繰り返す。そして別れも。だが、彼らは何度も出会おう。それが運命だから。」

伝える事は難しく、声を枯らしても届かない距離。ずっと、ずっと、叫び続けた日もあった。

そんな日はいつも悲しくて、寂しくて、君の事しか考えられない。心が叫んでいるのに、君は見えてくれない。どれだけ、胸が痛んだことか。

お願いだ。この痛みは何なのかおしえてくれ。

「どこに進んでいいのか分からない」

彼は呟いた。

アジサイが咲く季節。

彼は図書室で本を読みながら、雨が滴る音を聞きながら空を眺めていた。

「ちよつと…えつと、その君？」

不意に話しかけられた彼はビクツと体が揺れる。

そして、話しかけられた方に椅子ごと向けると、そこには男性が一人立っていた。

スーツはびしょ濡れの男性。

「なんですか？」

先生だと思い、彼と視線を合わせる。

「ああ、やっと会えた…」

彼はそう呟くと、椅子から離れ、男性に抱きついた。

「え？」

男性はきょとんという顔を見せながらも、思い出すように手を彼

の腰へと回す。

「覚えてる？」

彼は問う。

「ごめん、どちらさま？」

男性は答える。

「え？」

今度は彼がキョトンとする。彼は予想外の返事で少し動揺する。

「冗談だよ……久しぶりだな、司」

男性は、彼をもう一度強く抱きしめる。

「バカ………」

出会いは幾度も繰り返す。そして別れも。だが、彼らは何度も出会う。それが運命だから。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n9915m/>

---

瞳の奥の愛する君

2010年10月21日21時23分発行